

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)本田味噌醸造部新工場増築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	Q1		Q2		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 室内騒音レベル		-	-	3.0	-	-
1.2 遮音						
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-
1.3 吸音		-	-	3.0	-	-
2 温熱環境						
2.1 室温制御						
1 室温		-	-	3.0	-	-
2 外皮性能		-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	3.0	-	-
2.2 湿度制御		-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式		-	-	3.0	-	-
3 光・視環境						
3.1 昼光利用						
1 昼光率		-	-	3.0	-	-
2 方位別開口		-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備		-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策						
1 昼光制御		-	-	3.0	-	-
3.3 照度		-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御		-	-	3.0	-	-
4 空気質環境						
4.1 発生源対策						
1 化学汚染物質		-	-	3.0	-	-
4.2 換気						
1 換気量		-	-	3.3	-	-
2 自然換気性能		-	-	4.1	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理						
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能			0.43			3.5
1 機能性		3.6	0.40			3.6
1.1 機能性・使いやすさ						
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		4.3	0.50			
1 広さ感・景観	事務室天井高2.9mを確保	5.0	0.33	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上に加え食堂に自動販売機を設置	5.0	0.33	-	-	-
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	-
1.3 維持管理		3.0	0.50			
1 維持管理に配慮した設計	メンテナンスし易い仕上材を検討	4.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30			3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニルクロス、ビニル床シート、カーペット:20年	4.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外及び高温となる箇所のダクトはガルバリウムまたはSUSとしている	4.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主に耐久性の高い管材を使用する事で更新間隔を長くしている	4.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		3.6	0.20			
1 空調・換気設備	熱源のバックアップを行い、機器・配管は耐震対策を行っている	4.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	耐震クラスAとして設計を行っている	4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	多様な通信手段により通信の安定性を図っている	4.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			3.5	0.30		-	3.5
3.1 空間のゆとり			3.8	0.30		-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1未満	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性	PS、点検口の設置により構造部材を傷める事なく更新が可能	4.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性	将来更新時のルートの検討、搬入用扉を設置している	5.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保	将来の機器増設に備えたスペースを確保している	4.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	2.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺の環境を配慮した景観形成に努めている	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.0
LR1 エネルギー			-	0.40		-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.81	2.9	0.63		-	2.9
4 効率的運用			3.0	0.25		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング		3.0	-		-	
4.2	運用管理体制		3.0	-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1	節水	節水コマに加え、節水型便器を利用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60		-	3.1
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	点字紙	3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている	4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.2
1 地球温暖化への配慮			3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースに加え、駐輪場を確保	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.50		-	
2	振動		3.0	0.50		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		-	-		-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	1.00		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインの過半を満たしている	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	